

平成 22 年 5 月 1 日現在

研究種目：基盤研究( C )

研究期間：2007～2009

課題番号：19520551

研究課題名(和文) 日本陸軍の戦時動員計画と補給・兵站体制構築の研究

研究課題名(英文) A Study on Construction of Mobilization Programs and System of Supply-Logistics in Japanese Army

研究代表者

遠藤 芳信( ENDO YOSHINOBU )

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：70125368

研究成果の概要(和文): 陸軍の動員計画策定との関係で、補給・兵站体制構築の特質を3点にわたって解明した。第一に、1894年兵站勤務令に関して、1891年戦時編制草案及び1894年戦時大本営編制等との関係を中心にして解明した。第二に、補給・兵站体制の財政的基盤を分析し、特に日清戦争期の諸予算編成と会計経理の体制構築を解明した。第三に、日清戦争開始期の第五師団の動員と混成旅団の編成を解明し、さらに朝鮮国内における混成旅団の兵站体制構築開始の特質を解明した。

研究成果の概要(英文): This study clarified three property on the system of the supply-logistics with the plan of the mobilization. Firstly on the point of the Working s Order of Logistic in 1894, clarified the main subject on the relation with the Draft of the Wartime Organization in 1891 and the Wartime Organization DAIHONEI in 1894. Secondly analyzed the financial base on the system of the supply-logistics, especially the construction on the compilation of the budgets and the accounts management in the China-Japanese War. Thirdly clarified the Mobilization of the Fifth Division and the Organization of the Mixed Brigade in the beginning period of the China-Japanese War, more and more the construction system of the Mixed Brigade in Korea.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本陸軍、戦時動員計画、兵站体制、兵站勤務令、日清戦争、戦時大本営編制、随意契約体制、朝鮮国内兵站線構築

## 1. 研究開始当初の背景

陸軍の動員計画策定における補給・体制構築の研究は、戦前では、陸軍の当該主管事務担当者(陸軍省の経理・会計担当者、参謀本部、等)によって、自己の職務・業務の一環として実務的に言及されてきたことが多かった。戦後は、主に太平洋戦争期における各作戦地域の戦史研究等の一部として関連的に検討されてきた。また、その検討は当該作戦地域の戦闘従事者等によって補給・兵站活動の実態・体験・エピソード等が印象風的・局地的に言及されてきた。すなわち、従来の研究動向と背景においては、陸軍当局の政策・方針を明記した戦時編制・動員計画等の令達関係文書を基本にして補給・兵站体制構築の特質を解明する本格的・具体的な考察はほとんどなされなかった。これに対して、戦時の動員計画における補給・兵站体制構築を、戦時編制・動員計画令、兵站勤務令、戦時補充令、野外要務令・輜重兵操典、日清・日露戦争における補給・兵站勤務活動の実際と教訓化、の側面から解明することは、研究代表者の長期的研究課題の「近代日本陸軍動員計画策定史研究」における独創的・基幹的部分を占め、近代日本軍制史研究の研究水準を引き上げる学術的特色をもつと考えた。

また、特に、上記の令達関係文書等では、たとえば、1903年戦時補充令の「凡ソ補充八戦地ノ物質二頼ルヲ以テ原則トス」の文言の意味が解明されると考えた。本文言は、建軍期からの糧秣等の現地供給思想を継承しつつも、陸軍の戦時の動員計画に本質的底流として一貫して潜在し、補給・兵站体制構築に発現した「戦地(現地)自活の端緒的思想」を成立させるとともに、国外戦闘地域の地域住民・自治体等にかかわる民政・占領地行政等の関係認識もふくまれ、戦時国際法・軍事負担体制等からも注目される研究結果が予想される。

## 2. 研究の目的

以上の研究開始当初の背景に対して、特に、戦時編制・動員計画令、兵站勤務令、戦時補充令、野外要務令・輜重兵操典、日清・日露戦争における兵站勤務活動の実際と教訓化、に即して補給・兵站体制構築の特質を未公開文書により本格的に解明することは、本研究をもって最初とする。これによって、動員計画における補給・兵站体制のほぼ全体的体系と構造が浮上し、帝国主義段階の軍隊として成長する日本軍隊の国外での戦闘と戦争の特質を解明することができ、近代日本軍制史研究における研究水準を引き上げ、

後続する諸関連研究に対しても新たな研究の視点・視野の拡大を提供する役割と高い貢献が期待される。なお、従来の近代日本史研究等における「動員」の主研究対象は、第一次世界大戦以降の「国家総動員」や1918年軍需工業動員法及び1930年代の「国民精神総動員」等における、軍需生産体制や国民・自治体・企業等の戦時後方支援としての人的・物的な強制配置と統制を基本にしていた。これに対して、本研究は、戦時・戦場・戦闘活動に直結・対応の動員計画自体における補給・兵站体制の特質を解明することによって、「国家総動員」等の深部を解明することにもなる。

## 3. 研究の方法

第一に、戦時における軍隊の組織・編成の制度として制定・令達された戦時編制、及び諸兵力を平時から戦時態勢に移行させて戦時編制を実現する手続き等の制度として制定・令達された動員計画令における、補給・兵站関係の官衙・機関・組織の設置・編制動員体制の特質を解明する。

第二に、日清戦争期から調査・起草・制定・令達された補給・兵站関係諸勤務書及び1894年と1903年の兵站勤務令における補給・兵站業務計画(兵站事務、運輸通信事務、野戦監督事務、野戦衛生事務)の特質を解明する。

第三に、日清戦争後から日露戦争期にかけて調査・起草・制定・令達された1903年戦時補充令及び1914年戦時補充令改正における人員・馬匹・武器・器具・材料・被服・装具等の補充にかかわる請求・供給・整備等の手続きの特質を解明する。

第四に、陣中勤務・戦闘業務等のマニュアル書として制定された野外要務令における宿営・露営・行李・給養・衛生・輸送等の業務内容形成の特質解明、及び軍需品輸送の業務・方法・手段のマニュアル書として制定された輜重兵操典における戦闘活動の特質を解明する。

第五に、日清・日露戦争における補給・兵站勤務活動の実際と教訓化の特質を解明する。

## 4. 研究成果

第一に、1894年兵站勤務令に関して、1891年戦時編制草案と1891年兵站勤務令起草案の起草過程及び1894年戦時大本営編制等との関係を中心にして分析した。特に1894年兵站勤務令は、日清戦争開始前の陸軍主導の帝国全軍構想化路線の下に、その戦時海運業務の起案部分は海軍の同意をえることができず、その結果、陸軍側は戦時海運業務を削除して裁可・制定されたことを解明した。

第二に、補給・兵站体制の財政的基盤を分析し、特に日清戦争期の諸予算編成と会計経理の体制構築にかかわって、経常費と臨時費との区分措置、臨時・戦時給与関係、運送船購入における軍事優先化の随意契約の会計経理導入、野戦軍の会計経理に導入された糧食等購買における随意契約体制の特質を解明した。

第三に、日清戦争開始期の第五師団の動員と混成旅団の編成にかかわって、国内の兵站監部成立と糧秣調弁・補給・追送輸送・運搬体制や下関集積場の業務実態等を解明し、さらに、朝鮮国内における混成旅団の兵站体制構築開始を考察した。特に、仁川・龍山間の兵站線構築を具体的に検討し、仁川港を中心した兵站体制構築における現地の日本居留地総代及び商業会議所が兵站給養や人夫供給に果たした役割を解明した。

以上の解明は、日本近現代史研究、特に補給・兵站体制構築を基本にした近代日本軍制史研究の発展において大きく貢献するものである。なお、以上の研究実績は研究成果報告書として「日本陸軍の戦時動員計画と補給兵站体制構築の研究 1894年兵站勤務令の成立と日清戦争開始前までの兵站体制構築」(A4版、全頁数58頁)という冊子を印刷・製本し、大学図書館等に配付・寄贈した。本冊子の目次は下記の通りである。

## 目次

まえがき

はじめに - 本研究課題について

1894年兵站勤務令の成立

1891年戦時編制草案と兵站勤務体制

(1)1891年戦時編制草案における大本営編制と兵站総監部 (2)1891年戦時編制草案における軍と軍兵站部の組織

兵站勤務令草案の調査・起草の着手

1891年兵站勤務令起草案書の成立

(1)兵站組織機構の立ち上げ (2)兵站部の業務と権限 (3)兵站基地・集積場・兵站主地設置の目的 (4)兵站司令部の業務 (5)戦時鉄道業務 (6)戦時海運業務

1894年兵站勤務令の制定

(1)1891年兵站勤務令案の成立 (2)戦時大本営の設置と1894年兵站勤務令の制定

第五師団の一部動員と混成旅団の編制

混成旅団の編制

混成旅団における輸送・運搬体制

混成旅団兵站監部の編制と下関集積場設置

船舶等運送業務体制と第一次輸送諸隊

日清戦争期の諸予算編成と会計経理

朝鮮事件費諸予算編成と会計経理

(1)朝鮮事件費の臨時増設 臨時・戦時給与関係 (2)朝鮮事件諸費予算表の調製 (3)経常費と臨時費の区分措置

朝鮮事件諸費の予算請求

(1)朝鮮事件諸費の臨時軍事費支出手続

(2)臨時軍事特別会計法下の臨時軍事費支出手続

日清戦争開戦を迎える運送船購入と会計経理

(1)運送船購入と軍事優先下の随意契約にかかわる勅令第76号の成立 (2)日本郵船株式会社に対する便宜供与の強行

と勅令第92号の成立

野戦軍の会計経理体制

(1)野戦軍の会計経理事務 (2)糧食等購買における随意契約体制

朝鮮国内における兵站体制構築開始

仁川・龍山間の兵站線構築

(1)仁川における兵站体制構築 (2)混成旅団仁川着後から7月20日までの兵站給養

(3)仁川兵站主地への兵站追送

(4)仁川兵站監部における人夫雇用 朝鮮国住民の人夫雇用

今後の研究展望

(注)

<別表1 出師準備品品目数量一覧表>

<別表2 臨時歩兵一連隊編制表>

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

遠藤芳信、「日露戦争前における戦時編制と陸軍動員計画思想(12)

1893年戦時編制の成立と帝国全軍構想化路線の展開・変容」、北海道教育大学紀要(人文科学・社会科学編)、60巻2号、査読無、2010年、25-40頁、<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/1114>

遠藤芳信、「日露戦争前における戦時編制と陸軍動員計画思想(11)

出師準備管理体制の第三次的成立」、北海道教育大学紀要(人文科学・社会科学編)、60巻1号、査読無、2009年、39-54頁、<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/1020>

遠藤芳信、「『自衛』の軍隊をめぐる『民営化』構想」、『平和教育』76号、査読無、2009年、68-73頁

遠藤芳信「近代日本における徴発制度の成立」北海道教育大学函館人文学会編『人文論究』78号、査読無、2009年、1-28頁

遠藤芳信「日露戦争前における戦時編制

と陸軍動員計画思想(10) 戦時編制概念の転換と師団体制の成立」北海道教育大学紀要(人文科学・社会科学編)、59巻2号、査読無、2009年、43-58頁、<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/967>

遠藤芳信「日露戦争前における戦時編制と陸軍動員計画思想(9) 鎮台体制の完成と出師準備管理体制の第一次的成立-

」北海道教育大学紀要(人文科学・社会科学編)、59巻1号、査読無、2008年、103-118頁、<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/931>

遠藤芳信「軍備拡張下の陸軍動員計画思想 平時戦時混然一体化の鎮台体制と出師準備管理体制の萌芽」北海道教育大学函館人文学会編『人文論究』77号、査読無、2008年、87-118頁。

遠藤芳信「日露戦争前における戦時編制と陸軍動員計画思想(8) 1882年朝鮮壬午京城事件に対する日本陸軍の対応と動員」北海道教育大学紀要(人文科学・社会科学編)、58巻2号、査読無、2008年、57-72頁、<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/75>

遠藤芳信「日露戦争前における戦時編制と陸軍動員計画思想(7) 西南戦争後の陸軍会計経理の攻防と軍備増強」北海道教育大学紀要(人文科学・社会科学編)、58巻1号、査読無、2007年、71-86頁、<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/857>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

遠藤 芳信 (ENDO YOSHINOBU)  
北海道教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：70125368

### (2) 研究分担者

### (3) 連携研究者